

主題：電子版「地盤工学会誌」原稿の作成例

副題：電子版原稿を作るための説明書

Example of drafting a manuscript for Geotechnical Engineering Magazine

地盤 工学 (じばん こうがく) (公社)地盤工学会 主任研究員
 e-mail: jiban-kougaku@abcdefg.org.jp (責任著者のメールアドレス)

会誌 部会 (かいし ぶかい) (公社)地盤工学会 研究員

報文 作成 (ほうぶん さくせい) 地盤建設(株)地盤工学技術部 部長

Edison, T. A. (トーマス アルバ エジソン) ※ 地盤建設(株)地盤工学技術部 主任

※名前の表記 : Last name, First name の略 Middle name の略の順番
 カタカナ表記 : First name - Middle name - Last name の順番

キーワード：液状化, 斜面安定, 補強土, 砂質土

1. はじめに

「地盤工学会誌」編集の基本方針『会員に役立ち、読みやすいもの』に沿った原稿の執筆にご配慮ください。図、表、写真等を有効に使用し、簡潔にわかりやすく書いてください。特に、論旨が明確となるようにご配慮ください。

この原稿作成例には、版下原稿（論文）を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する情報が記述されています。査読、修正終了後の一次原稿を本作成例に従い編集してください。なお、使用するワープロ、パソコン、プリンタなどの機器やソフトなどによって、設定したフォントサイズと実際の出力サイズが異なる場合がありますので、そのような場合は、この原稿作成例のフォントサイズに限りなく近いフォントサイズを選んで出力してください。

原稿の体裁は、基本的に該当部分に「スタイル」を適用することで変更してください。原稿を平文で作成した後、「スタイル」を適用すると版下原稿を上手く作ることができます。

2. 原稿執筆にあたって

(1) 掲載区分と割当てページ数

投稿原稿執筆の際は、掲載区分に示すページ数を参照してください。割当てページ数には表題および執筆著者名、原稿受理日までの部分を含みます。なお、投稿者が指定した掲載区分は、編集委員会において変更することがあります。

(2) 論文タイトル

論文タイトルは原稿全体の内容を簡潔に表すような適切なものにしてください。編集委員会から修正を依頼することもあります。英題も合わせてご提出ください。

(3) 著作権の侵害について

著者は、原稿の執筆にあたって、他人の著作権を侵害することのないようにご留意ください。文章および図表類の引用にあたっては、引用部分を必要最小限とし、その箇所を明確にして下さい。文章および図表類を引用の範囲を超えて転載することは、極力避けて下さい。

特に他人の著作物の無断転載の場合は、引用・転載した著者の責任となりますので、引用・転載の場合は原稿提出時までに著者の責任において「転載許可」を取ってください。

3. 全体のレイアウト

3.1 原稿の提出

原稿提出の際は、オンライン投稿審査システム (Editorial Manager, 以下, EM) をご利用いただき、必要事項を記入し、「電子版原稿の作成例 (本書)」に従い原稿を作成して、投稿してください。

ここでは、原稿全体にかかわるレイアウトについて説明します。

3.2 原稿の構成, 文体, 用語・用字

(1) 構成

原稿は、次の部分で構成します。

論文題目部分：横1段組 (題目, 著者名, 役職, キーワード)

本文部分：横2段組

(2) 原稿用紙

原稿用紙は、縦置き A4 用紙で、横書きとします。

(3) マージン

基本的なマージンは、次のとおりです。

上マージン : 25 mm

下マージン : 20 mm

左右マージン : 20 mm

(4) ヘッダおよびフッタ

ヘッダ及びフッタは事務局で入れます。

(5) 文体

文体はひらがな混じりの口語体で、簡潔にわかりやすい表現にしてください。

(6) 用語表記法

用語表記法は、「[地盤工学会用語表記法](#)」に従ってください。

(7) 句読点

句読点は、「。」「,」表記とします。

(8) 人名

外国人名は原語を使用し、和読みを括弧内に記入してください。反復して使用する場合は、以下原語のみとします。ただし、術語になっている人名 (例えば、

ランキン土圧, ポアソン比など) や、すでにカタカナ書きで一般に書き表されている人名 (例えばニュートンなど) は和読み (カタカナ書き) とします。

日本人, 外国人とも敬称は付けないこととします。なお, 姓だけではまぎらわしい場合は名を付けてください (引用・参考文献等に挙げられ, 区別がつく場合はこの限りではありません)。

(9) 外国の固有名詞

外国の地名, 会社名, 大学名などは, 原語を使用し, 和読みを括弧内に記入してください。反復して使用する場合は, 以下原語のみとします。ただし, 国名およびカタカナ書きで一般に書き表されている地名はカタカナ書きとします。

(10) その他

行頭のひらがな小文字 (「つ」, 「や」など), 図番などの「ー」や「々」および句読点などは, 文字間隔を調節して行末にまわすようにしてください。(行頭禁則文字の対応)

3.3 論文タイトル部分のレイアウト

論文タイトル部分は, 主題, 副題 (必要に応じて), 英文タイトル, 著者名, 所属機関名, 役職, キーワードから構成されます。それぞれ, 次の順に横1段組で記載してください。

主 題 : 16pt, ゴシック体

副 題 : 12pt, ゴシック体

英文タイトル : 10.5pt, Times New Roman

著者名・ふりがな : 10.5pt, 明朝体

3.4 本文部分のレイアウト

本文の漢字・仮名フォントは明朝体の全角, 英字・数字は Times New Roman を用いてください。また, 本文は2段組で, 段間隔は約6mmとしてください。文字間隔は, 1段あたりの1行が全角で24文字, 1ページ40行となるよう調整してください。

本文のフォントは漢字・仮名は明朝体の全角 10.5pt, 英字・数字は Times New Roman 10.5pt を用いてください。

(1) 見出しのつけ方 (見出しが2行以上にわたるとき

は、インデントして折り返します)

章、節、項などの見出しのつけ方は次のとおりとします。

(章) : 1., 2., 3. …

(節) : 1.1, 1.2, 1.3…

(項) : (1), (2), (3) …

(小見出し) : i), ii), iii)

(箇条書き) : 必要に応じて①, ②, ③……を使用

原則として、この見出しの付け方に従ってください。ただし、総説、論説の場合、本文の内容によっては、番号を付けない見出しでも結構です。

(章) のフォントは、漢字・仮名はゴシック体 (MS ゴシック推奨) の全角 14pt, 英字・数字はゴシック体 (Arial 推奨) の半角 14pt とします。平文で記入した後、スタイル「章の見出し」を適用してください。

(節) のフォントは、漢字・仮名はゴシック体 (MS ゴシック推奨) の全角 12pt, 英字・数字はゴシック体 (Arial 推奨) の半角 12pt とします。平文で記入した後、スタイル「節の見出し」を適用してください。

(項) のフォントは、漢字・仮名はゴシック体 (MS ゴシック推奨) の全角 10.5pt, 英字・数字はゴシック体 (Arial 推奨) の半角 10.5pt とします。平文で記入した後、スタイル「項の見出し」を適用してください。

(小見出し・箇条書き) のフォントは、通常の本文のフォントと同じとし、スタイルは適用しない。

(2) 単位・記号

i) 記号

記号 (量記号) は、” SI 単位” で統一してください。

ii) 単位・記号の表示方法

原則として、量を表す記号 (量記号) は「[地盤工学会用語の標準記号](#)」に従って斜体 (イタリック体, 添字は立体), 量記号以外の記号 (単位記号, 化学記号など) は立体 (ローマン体) としてください。

3.5 数式及び数学記号

数式は 9pt とし、次に示す式(1), 式(2)のように書いてください。

$$z = \int_0^{2\pi} (2 \sin \theta - 2\theta) d\theta + \sum_{m=1}^{\infty} \cos \frac{(2n-1)\pi}{2} \pi \quad (1)$$

$$F_c = k2z \left[\frac{\partial u}{\partial z} \right] \left[\frac{\partial p_c}{\partial z} \right] \left[\frac{K_c}{K_m} \varphi_m^{-2} \right] \quad (2)$$

数学記号は、文書中に出てくる場合 (例えば F_c) も、数式のフォントと同じものを用いてください。

数式番号は、括弧書きで右詰めにします。

3.6 図表、写真

図、表、写真は、できるだけオリジナルなもので、十分吟味し創意工夫されたものを用い、審査員が読みとることのできる鮮明なものにしてください。図によっては、読者の便を考え、簡略化あるいは透視図化するなど工夫が望まれます。写真は読者が読みやすいよう鮮明なものが要求されますので、オリジナルを用い、他からの転用は避けてください。写真の解像度は 300dpi 以上を基本としてください。

外国文献等から図、表を転用する場合は、図、表中の外国語をできるだけ日本語に訳してください。

本文中の図・表・写真はフルカラーで表示されます。また、詳細な情報が記載されている WEB サイトなどございましたら、URL を記載して頂くことも可能です。

(1) 図、表、写真の配置

簡易な表は原稿内に入力しても構いません。一方、複雑な表および、図、写真については、他アプリケーションで作成したデータを、原稿中にテキストボックスなどでレイアウトしてください。図表、写真はそれらを最初に引用する文章と同じページにおくことを原則とします。入りきらない場合、次ページに追い出すことも可能とします。図表と本文の間には必ず 1 行の行間スペースを設けてください。

表-1 表のキャプションは表の上に置きます。表は原稿の中に直接入力することもできます。スタイル「表の見出し」を適用してください。

項目	SI単位	重力単位
力	N 1 9.8	kgf 1.02×10^{-1} 1

表-2 表はテキストボックス内に配置しても良いですが、表中の文字が読める大きさにしてください。スタイル「表の見出し」を適用してください。

項目	SI単位	重力単位
力	N	kgf
	1	1.02×10^{-1}
	9.8	1

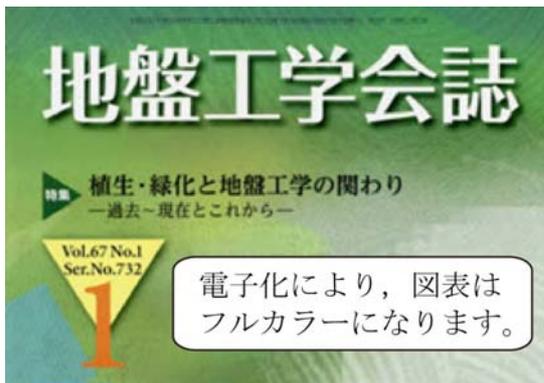


図-1 図、写真のキャプションは下に置き、このように長いときはインデントして折り返します。スタイル「図・写真の見出し」を適用してください。

(2) 図、表、写真の文字および表題

図、表、写真の文字および表題のフォントは、漢字・仮名は明朝体の全角、英字・数字は Times などの代表的な Roman 体を使用してください。

図・表中の文字のサイズは最小でも 8pt 程度としてください。図・表の表題は、9pt のサイズで次のように記載してください。

図+全角ハイフン+番号+全角スペース+表題

表+全角ハイフン+番号+全角スペース+表題

写真+全角ハイフン+番号+全角スペース+表題

表題が長い場合には、サンプルの表-1、図-1 のようにインデントして折り返します。

3.7 脚注

脚注を設ける場合には、該当箇所の右肩に注 1)、注 2)・・・注 n)を付け、参考文献の前に注釈を記入してください。

脚注を書き始める位置で、まず、スタイル「脚注分割線」を適用してください。その下に注釈を書き、ス

タイル「脚注」を適用してください。

注 1) 上の線は、スタイル「脚注分割線」を選ぶと表示されます。

注 2) 注釈文には、スタイル「脚注」を適用してください。

参考文献

文献を引用するときは、引用箇所の肩に ^{1),2),3),...n)} を付け、引用順にまとめて、原稿末に列記してください。

【例】Stokes (ストークス) ¹⁾ によれば……

鈴木 ^{2)~5)} の結果では……

しかし田中の報告 ^{1),2)} では…

参考文献は次の書式に従って、ぶら下がりインデント (全角 1 文字分のスペース) で書いてください。

参考文献は本文中の該当箇所の右肩に 1), 2)……………として番号順にすべて本文末尾にリストとしてまとめてください。参考文献という文字はスタイル「章の見出し」を適用してください。参考文献リストは、漢字・仮名は明朝体の全角 9pt、英字・数字は Times New Roman 体 9pt を用いて行間は 5mm 程度としてください。

参考文献は次の書式に従って、ぶら下がりインデント (全角 1 文字分のスペース) で書いてください。スタイル「参考文献」を適用してください。

(1) 雑誌の場合【例】

- 1) 高瀬国雄・天野 允・山下 進：地震によるアースダムの被害、土と基礎, Vol.14, No.10, pp.3~8, 1966. (和文論文のページ表記は pp.〇~〇というように「~」を使います)
- 2) Tum bull, W. J. and Mansur, C.I. : Design of Underseepage Control Measures for Dams and Levees, Proc. ASCE, Vol.85, No.SM5, pp.129-159, 1959. (和文以外の論文のページ表記は pp.〇-〇というように「-」を使います)

(2) 書籍の場合【例】

- 1) 最上武雄・渡辺 隆：平易なる土質力学, 土質工学会, pp.1~9, 1957.
- 2) Terzaghi, K. and Peck, R. B. : Soil Mechanics in Engineering Practice, John Wiley & Sons, pp.89-93, 1967.

(3) 電子文献の場合【例】

- 1) 地盤工学ジャーナル, 地盤工学会, 入手先 <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jgs/3/1/_contents/-char/ja/> (参照 2008.3.17)

(原稿受理 2020.1.1)